

編集後記

気がつけば、アーサー・クラークの2001年/2010年宇宙の旅、手塚治虫の鉄腕アトムの誕生の2003年が現実の時代になった。学長の「筑波大学の21世紀におけるさらなる発展のために—将来計画と意識改革の重要性を訴える—」の所信表明では図書館情報大学との統合問題、看護・医療学類（仮称）の新設、開学30周年記念事業が平成15年度までに達成しておくべき緊急事項だと述べられている。これらの問題が筑波大学の教育問題にどのように関わってくるのかを本号の特集で取り上げることを検討した。教育との係わりでという要求が難しかったか、まだ詳細を発表できる段階ではなかったのか、いろいろ考えられるが、原稿が集まってみたら編集委員会での煮詰め方が足りなかったことが浮き出てしまったようだ。

年3回の刊行に合わせて、年3回の編集委員会を開催している。編集委員会の仕事は、特集を企画することと、執筆者の依頼が主なものになっている。編集委員会の効率をあげるために、メーリングリスト（電子メールによる同報システム）を立ち上げた。そこで、委員会前の打ち合わせ、意見交換をおこなおうというわけである。いろいろの意見が出た中で、筑波フォーラムの教育重点のスタンスを再検討したらどうかというものがある。昭和53年に発行要領ができて、昭和63年に改正されている。ここ数年の間に改正されても良い頃かもしれない。スタンスを変えるということは目的を変えることで、編集子は踏ん切れないでいる。学長の所信にいう意識改革の重要性は筑波フォーラムについても当てはまるだろうか。読者のご意見をぜひとも伺いたいところである。

次号の特集には「教育の社会対応」を企画する。そこで、基礎教育と応用教育、学問と技術などの問題を語ってもらう予定である。十分に煮詰めたつもりであるが...

（高井省三）